

麻生菊花会勉強会及び講習会

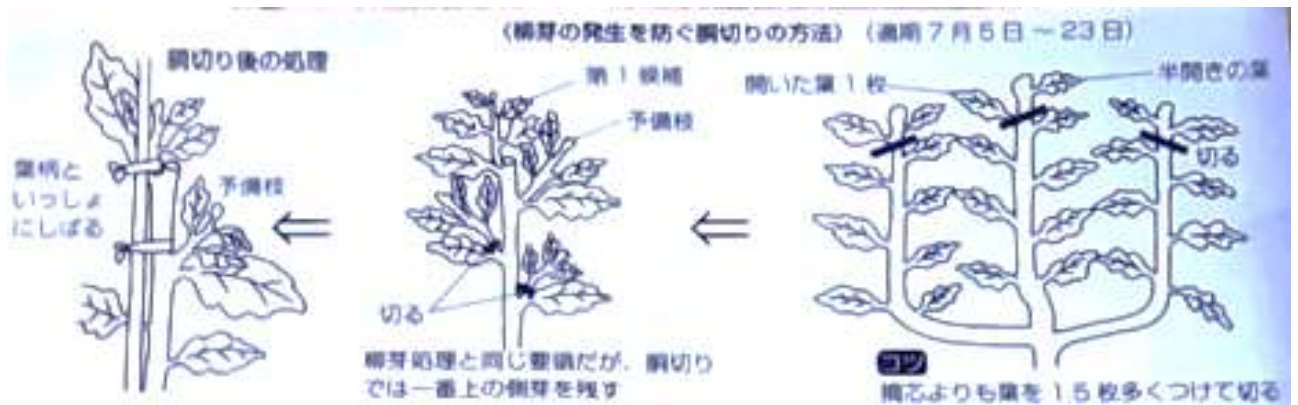
プリントさし芽の手順の最後に大鉢へ定植を参考にして説明致しますので、プリント持参して下さい。

- ① 盆用3本仕立て定植（厚物→9号鉢） （管物→8号鉢）

※定植後元肥は、3日後に厚物は大匙3~4杯を、管物は大匙1~2杯を3か所に施肥する。

その後は、15日毎に厚物は8月25日頃迄、管物は8月中旬で止め肥とする。忘れずオルトラン（殺虫剤）を一緒にやる。

- ② 胴切り→普通の摘芯より深く胴を切る感じなので、胴切りと呼ぶ。胴切りをすると、柳芽の発生を防ぐ事が出来る。切る位置は半開きの下の完全に開いた葉1枚の下が目安で、3枚を同時に切るついでに切る位置を変えると、草丈調整が出来る。胴切りの適期は7月5日頃から7月20日頃で、例年柳芽の出やすい品種は遅めに処理する方が良い。



- ③ ピンチ、柳芽→茎頂につく柳の葉のように細くなる芽を柳芽といい、そのまま育てても花になりません。8月下旬までに発生した柳芽は、早めに摘み取ります。但し9月上旬以降に発生する柳芽は、花になります。



- ④ 柳芽のすぐ下で、茎が最も太いもの1本を芯にして、支柱にゆるく固定します。この時、下の葉腋に付いた側枝は、予備枝として支柱に添えて固定しておきます。



- ⑤ 肥料止め→花芽分化期は品種や気象条件によって異なるが、8/25～9/5 頃が多く、この時期に窒素を多く吸収すると花弁数が多くなり巨大輪になりやすい。そのため8/25頃止め肥として乾燥肥料大匙山盛り1・5杯ずつ3か所に与え浅く覆土する。

花芽分化から2週間後くらいに着蕾するが、以降は徐々に窒素肥効を落としていく必要があるためこの8/25が最後の乾燥肥料=止肥となる。

肥料止め表

仕立て	期 間
盆養 厚物	8/25~8/30 頃迄
盆用 管物	8/10~8/20 頃迄
ダルマ仕立て	厚物=9月上旬 管物=1回で止め、液肥は9月半ばまで
福助仕立て厚物	厚物=9月半ば 管物=9月初め、液肥は9月中旬～10月中旬迄
ドーム菊（クッションマム）	8月中旬、液肥は9月中旬まで
スプレー菊	7月中旬～8/20 頃迄
盆栽	小品盆栽=7/15 迄 石付=7月末まで

- ⑥ 追い込み液肥 9/1～9月中旬まで、1,000倍の液肥を週2～3回様子を見ながら与える
 N=8/25～9/5 V=9月中旬 K=9月中旬 植物活力剤何でも
 ※生育が遅れ気味の場合、焦って濃い液肥を与えると根が耐え切れず失敗する。薄めのものを与え、生育に従って回数や濃度を上げていくとよい。
- ⑦ 側芽欠き→8月に入って成長が盛んになると、各節の葉の付け根から側芽が次々に伸びてくる。側芽は3～5cmの小さい間に、手でかき取るただし、上部10cmは、芯が虫害などで損傷した場合の予備枝としてしばらく残しておく。
- ⑧ 肥料調整（苦土石灰）→止め肥、追い込み肥で9月中旬にはチツツ過多気味になる。着蕾から破蕾以降、鉢土中にチツツが多いとカルシウムの吸収が悪くなり、花腐れを起こしやすくなる。カルシウムは気温低下でも吸収が悪くなるので、9/10日、9/20日2回苦土石灰大匙1を3か所にやる。
- ⑨ 花肥→PK液肥 9/10～10月半ばまで週2回（花の様子を見て）PK液肥 1,000倍をやる。

※ 7/12日と8/9日2か月分の資料となります。7月の講習会頑張っ、8月は暑いので夏休みと致します。次回は9/13(第2水曜)後半あと少しですので頑張りましょう。

以上

松井